

# 「再帰反射構造を有しSAR衛星で観測可能な海上浮力体の研究開発」の概要

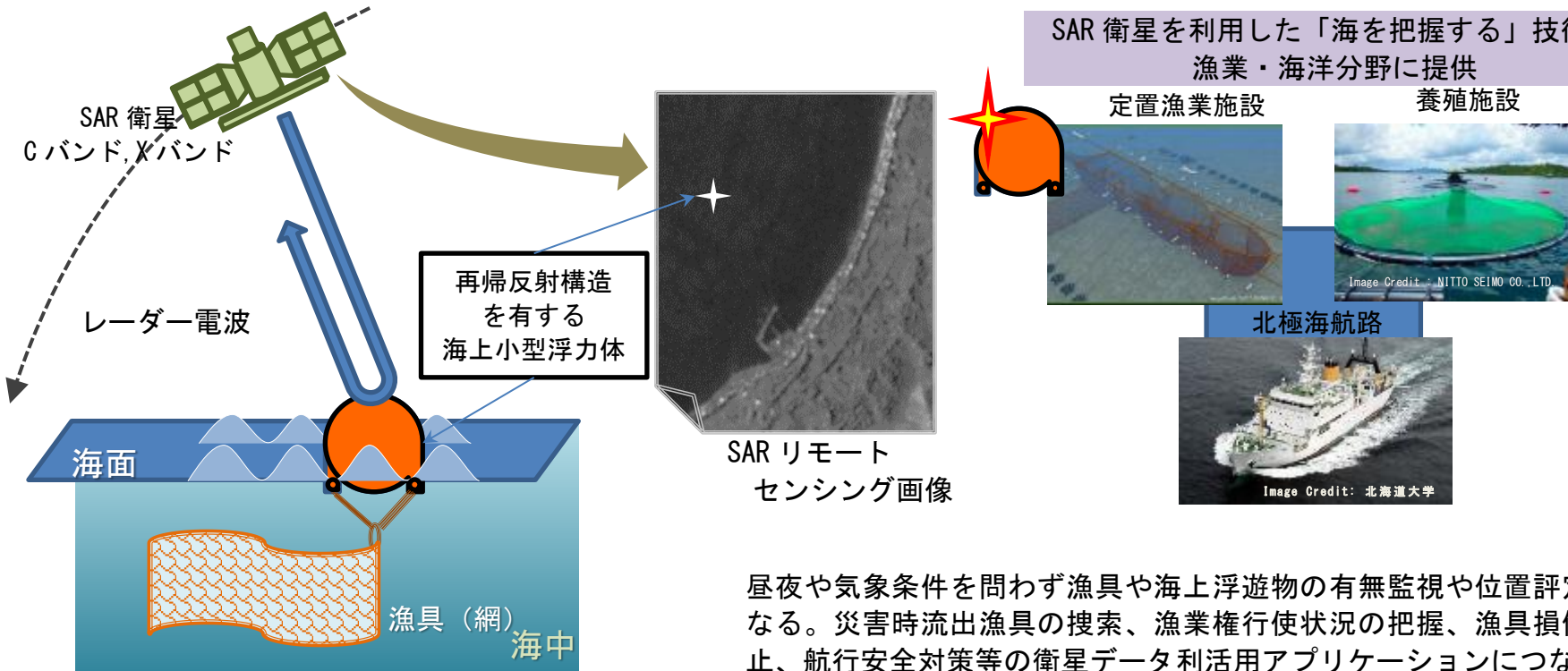
研究代表者：高橋 文宏（株式会社グリーン&ライフ・イノベーション）

参画研究機関：北海道立総合研究機構、日東製網株式会社、北海道大学

研究開発期間：令和元年度～令和2年度(フェーズⅠ)、令和3年度～令和4年度(フェーズⅡ)

**実施内容** ①上空から飛来する衛星電波を効率的に反射させる構造、並びに素材に関する基礎的な技術検討を実施、②電波の再帰反射性を有する反射体を格納した、海上漁労作業や漁具固定に利用可能な浮力体を試作開発、③試作品浮力体を定置漁具に試験的に係留、船舶から試験的に漂流させ、SAR衛星による同期観測実験を実施する。衛星データを解析し試作品の評価を行う。

**目的** レーダー断面積が極めて大きな浮力体を実用化するために必要な基礎技術を獲得し、実際にそれを実用化することで、漁業・海洋分野における衛星データ活用事例の新規開拓を目指す。



昼夜や気象条件を問わず漁具や海上浮遊物の有無監視や位置評定が可能となる。災害時流出漁具の捜索、漁業権行使状況の把握、漁具損傷事故の防止、航行安全対策等の衛星データ利活用アプリケーションにつながる。